

佐倉市

幼保小架け橋プログラム推進事業

指針



令和8年1月

佐倉市教育委員会

<目次>

1 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業とは

(1) 目的

(2) 具体的な取組の概要

(3) 佐倉市の施設の状況

2 取組① 仲間が増え、相談しやすい！「研修・連携体制の構築」

(1) 連携内容例とその主体

(2) 交流活動案の作成

(3) ブロック分け

3 取組② 接続が見える化する！「架け橋カリキュラム」

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(2) 教育のつながり

(3) 架け橋カリキュラムの作成

4 今後の予定

I 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業とは

(1) 目的

「幼保小架け橋プログラム」とは、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指す取り組みのことです。幼児教育から小学校教育に上がったときの変化は子どもたちにとって違和感やギャップとなり、今までできていたことができなくなったり、登校できなくなったりすることがあります。子どもたちのこうしたストレスを排除し、健全な学びを進めるためにも関わる大人が手を携えることが重要だと考えます。

佐倉市では具体的に以下の2点を柱とする『佐倉市幼保小架け橋プログラム』を推進していきます。

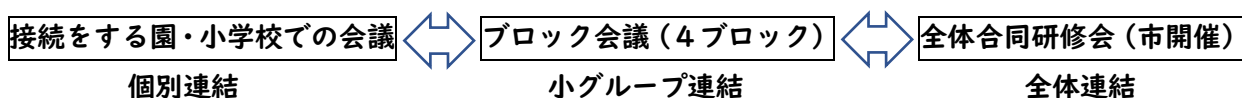
- ①架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい学びを「見える化」すること
→「架け橋カリキュラム作成の手引き」の作成（令和8年度配付予定）及び活用
- ②佐倉市の実情にあった垣根のない枠組みの構築
→研修・連携体制の構築

(2) 具体的な取組の概要

①仲間が増え、相談しやすい！「研修・連携体制の構築」

規模が異なる3つの連結体制を構築し、各体制で研修や会議等を行う。

→共通理解事項を踏まえ、地域の取組を参考にした上で、接続する園・小学校の実態に応じた連携へとつなげることができる。



②接続を見える化する！「架け橋カリキュラム」

「架け橋カリキュラム」

5歳児から小学校1年生の教育内容、つながり、交流について1枚のシートにまとめたもの。

- ・市教育委員会が「架け橋カリキュラム作成の手引き」を作成する。
- ・作成の手引きをもとに、接続をする園・小学校で架け橋カリキュラムを作成
→作成したカリキュラムから接続に必要な教育を考え、実践する。



円滑な接続

幼稚園・保育園 5歳児から6歳児	小学校 1年生
<p>【自然遊び】 5歳児 ・季節の移り変わりを観察し、自然の恵みを感じ、自然の恵みに感謝する。</p> <p>【生活遊び】 5歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p> <p>【制作遊び】 5歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p> <p>【文字遊び】 5歳児 ・文字の読み書きの基礎を学び、文字の読み書きの基礎を実践する。</p> <p>【運動遊び】 5歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p>	<p>【自然遊び】 6歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p> <p>【生活遊び】 6歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p> <p>【制作遊び】 6歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p> <p>【文字遊び】 6歳児 ・文字の読み書きの基礎を学び、文字の読み書きの基礎を実践する。</p> <p>【運動遊び】 6歳児 ・身の回りの生活に必要なことを学び、生活に必要なことを実践する。</p>

研修・連携体制の充実

架け橋カリキュラムの作成、活用

幼稚園
保育園
認定こども園

小学校

(3) 佐倉市の施設の状況

市内の施設数については、以下の通り、私立保育園が一番多くなっています。施設は各地区に点在していますが、半数が志津地区にあるという状況です。また、様々な要因から、就学先が同地区ではなかったり、1つの小学校に多数の幼稚園等から進学したりするケースも存在しています。

公立幼稚園は、令和7年度末をもって閉園となり、令和8年度は0となる予定です。

①幼稚園、保育園、認定こども園の数

	施設数
公立幼稚園	1
私立幼稚園	4
公立保育園	6
私立保育園	27
認定こども園（私立）	8

②地区ごとの小学校、保育園・認定こども園の数（除幼稚園）

	小学校	保育園・認定こども園
佐倉地区	5	7
志津地区	8	19
臼井・千代田地区	6	9
根郷・和田・弥富地区	4	6

2 取組① 仲間が増え、相談しやすい！「研修・連携体制の構築」

佐倉市では、園、小学校の垣根を無くし、連絡、連携をより迅速に行うことができるよう、実情に合った体制を構築していきます。構築するにあたり、以下にある3つの取組を行います。

各組み合わせとブロックでの会議を通して、「架け橋カリキュラム」を活用した子どもたちの交流、職員の交流等が行われることで、一貫性のある支援へとつなげることができます。また、近隣の学校・園の取組や現状を知り、指導・支援・取組等に生かせるといった利点があります。他にも、進学先が1園1校ではなかったり、近くに保育施設がなかったりする場合、他のカリキュラムを知ることで、地域のカリキュラムを把握し、小学校1年生の指導に生かすこともできます。

I 接続する園と小学校の組み合わせの決定

これまでの連携実態、立地等を考慮し、小学校1校につき、幼稚園等1～3園となるようにします。具体的な組み合わせについては、令和7年度中に決定し、各園、小学校に伝達いたします。

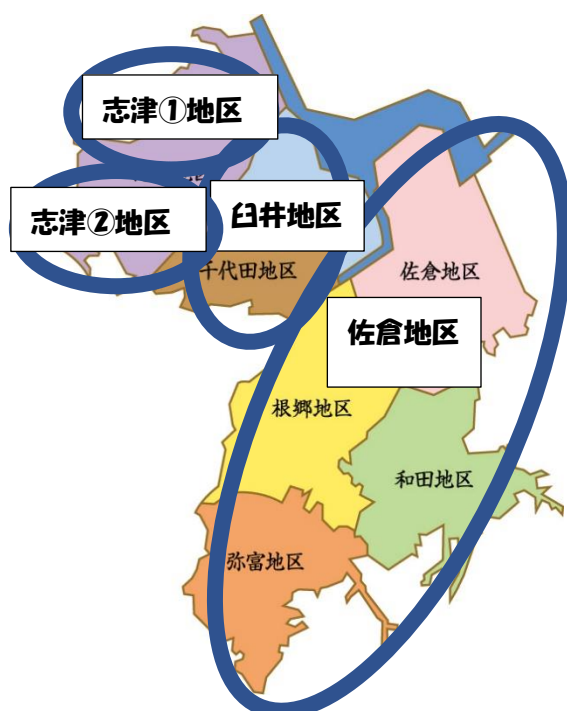
II 組み合わせをブロックで分ける

幼稚園等の施設数が、志津地区に偏りが見られることから、志津地区のみ2つとし、佐倉、白井、志津①、志津②の4つのブロックとします。（下図参照）

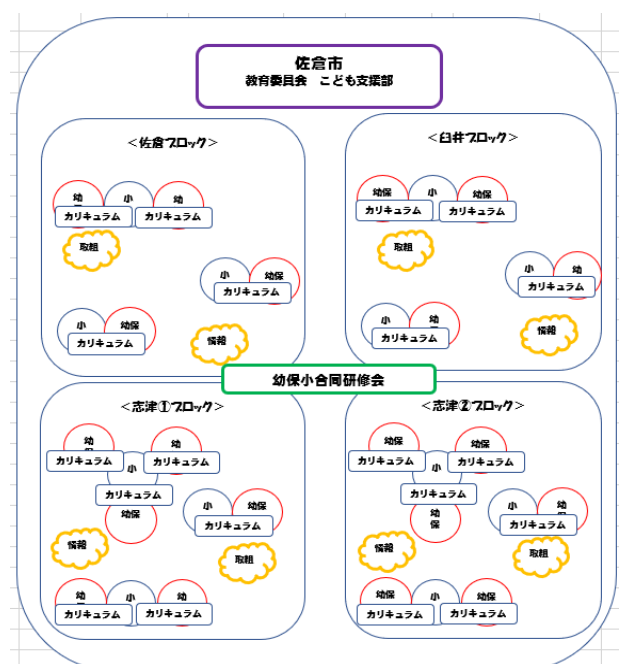
III 合同研修会の開催

幼稚園等の5歳児を担当する職員、小学校の架け橋プログラム担当職員を中心に構成する予定です。必要に応じて管理職等にも参加いただき、幼稚園等と学校全体で架け橋プログラムへの理解が深められるようにします。

<ブロック 佐倉・白井・志津①・志津②>



<連携体制イメージ>



(1) 連携内容例とその主体

【接続する園・小学校主体】

- ① 架け橋カリキュラムをもとにした教育内容の連携
- ② 子どもの交流（例：学校案内、発表会の参加、遊びを教える等）
- ③ 職員の交流（例：相互授業参観、連携会議等）
- ④ 交流活動案の作成
- ⑤ 個々の研修（架け橋カリキュラムの作成・見直し等）

【佐倉市主体】

- ① 全体研修（幼保小合同研修会）
共通理解、目的の共有
- ② ブロック研修（幼保小合同研修会内）
架け橋カリキュラム・取組の共有、情報共有等

(2) 交流活動案の作成

○作業内容

- ・ 園児や1年生の動き、教職員の動き、事前の準備等について話し合う。
- ・ 実施後、成果や課題を話し合い、記録に残す。
- ・ 年間指導計画にはさむ。

○作成例

○○幼稚園・○○小学校 交流活動案

(1) 日時 : 令和○年○月○日 13:30～14:20

(2) 場所 : ○○小学校 体育館

(3) 参加人数 : ○○幼稚園 職員○名、園児○名

○○小学校 職員○名、児童○名

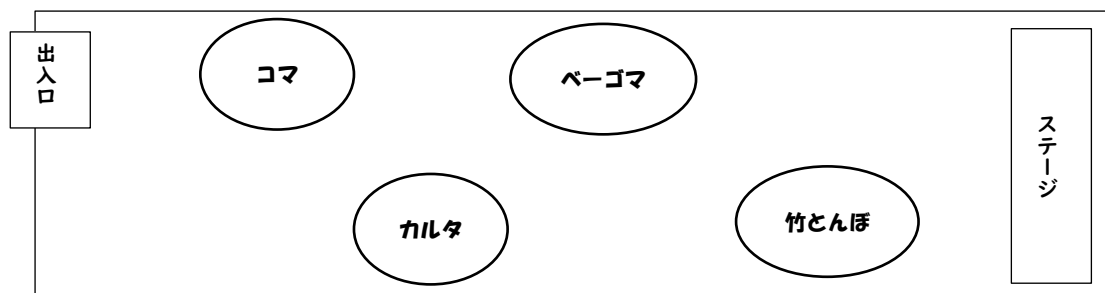
(4) ねらい : 相手を意識して、分かりやすいように説明をする。(小)

説明する人の話をよく聞いて、取り組む。(幼)

(5) 展開

幼稚園職員動き	園児動き	時間	1年生動き	小学校教諭動き
○幼稚園出発	○幼稚園出発	13:10		○幼稚園受け入れ準備
○小学校到着	○小学校到着	13:25	○体育館移動	
○移動補助	○始めの会をする。 ○遊びの場所にそれぞれ分かれる。	13:30 13:40	○始めの会をする。 ○担当の遊びの場所に分かれる。 ・コマ ・カルタ ・ベーゴマ ・竹とんぼ	○司会等補助。 ○10分ごとに場所を移動する。
○園児補助	○元の場所に集合する。 ○終わりの会をする。 ・感想を言う。 ○退場	14:10 14:15 14:20	○元の場所に集合する。 ○終わりの会をする。	○司会等補助。
○人数等確認	○小学校出発 ○幼稚園到着	14:30 14:45		○見送り ○到着確認

(6) 配置図



(3) ブロック分け

○現状の地区割

地区	小学校	保育園・認定こども園	幼稚園	合計
佐倉地区	5	7	1	12
志津地区	8	19	2	29
臼井・千代田地区	6	9	2	18
根郷・和田・弥富地区	4	6	0	10
	23	41	5	69

○幼保小架け橋プログラムに向けた4ブロック

地区	小学校	保育園・認定こども園	幼稚園	合計
佐倉地区	9	13	1	23
臼井地区	6	9	2	17
志津①地区	4	9	1	14
志津②地区	4	10	1	15
	23	41	5	69

○佐倉地区（佐倉・根郷・和田・弥富）

（小学校）

佐倉小学校	根郷小学校
内郷小学校	山王小学校
佐倉東小学校	弥富小学校
白銀小学校	和田小学校
寺崎小学校	

（幼稚園、保育園、認定こども園）

佐倉幼稚園	生活クラブ風の村保育園佐倉東
佐倉保育園	陽の木さくら保育園
根郷保育園	かえて保育園さくら駅前
馬渡保育園	佐倉くるみ幼稚園
にじいろ保育園佐倉	千成幼稚園
さくら敬愛保育園	佐倉城南幼稚園
はくすい保育園	慈光幼稚園

○白井地区（白井・千代田）

（小学校）

印南小学校	白井小学校
染井野小学校	間野台小学校
千代田小学校	王子台小学校

（幼稚園、保育園、認定こども園）

白井幼稚園	まなびの森おひさま保育園
白井たんぽぽ幼稚園	レイクサイドインターナショナルチャイルドケア
白井保育園	森と自然の保育園 のびのびハウス
すみれ保育園	白井はくすい保育園
青葉保育園	吉見光の子モンテッソーリ子どもの家
第二青葉保育園	

○志津①地区 学校

（小学校）

青菅小学校	井野小学校
小竹小学校	志津小学校

（幼稚園、保育園、認定こども園）

小竹幼稚園	AIAI NURSERY ユーカリが丘
北志津保育園	ウェルネス保育園ユーカリが丘
ユーカリハローキッズ	ユーカリの森マイキッズ
みやのもりハローキッズ	ユーカリしぜんのこほいくえん
えがおの森保育園・いの	モンテッソーリ光の子

○志津②地区 学校

（小学校）

上志津小学校	西志津小学校
下志津小学校	南志津小学校

（幼稚園、保育園、認定こども園）

志津幼稚園	ウェルネス保育園佐倉
志津保育園	AIAI NURSERY 下志津
みくに保育園	さくら幼稚園
ソラストさくら保育園	志津わかば幼稚園
マミーさくら保育園	ウエスト・デイリーキッズ
AIAI NURSERY 上志津	

3 取組② 接続が見える化する！「架け橋カリキュラム」

5歳児から小学校1年生の教育内容、つながり、交流についてまとめた架け橋カリキュラムを作成することで、これまで幼稚園等と小学校がそれぞれの目標をもとに行っていた教育を、可能な限り切れ目なくつなげることを目指します。また、幼保小のつながりを理解することで、互いを意識した教育を行うことが期待されます。

佐倉市では、令和7年度に「架け橋カリキュラム作成の手引き」を策定し、令和8年度に各園及び、小学校に作成を依頼する予定です。園、小学校の負担が少なく、実際の教育・支援に直結するカリキュラムとなることを目指し、市として作成の支援を行っていきます。

（1）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼稚園等では、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿が以下の10項目で示され、その姿を考慮しながら教育活動が行われています。小学校教育との円滑な接続を図る上で、この視点を共有することが重要です。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑥思考力の芽生え |
| ②自立心 | ⑦自然との関わり・生命尊重 |
| ③協同性 | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑨言葉による伝え合い |
| ⑤社会生活との関わり | ⑩豊かな感性と表現 |

（出典：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領）

(2) 教育のつながり

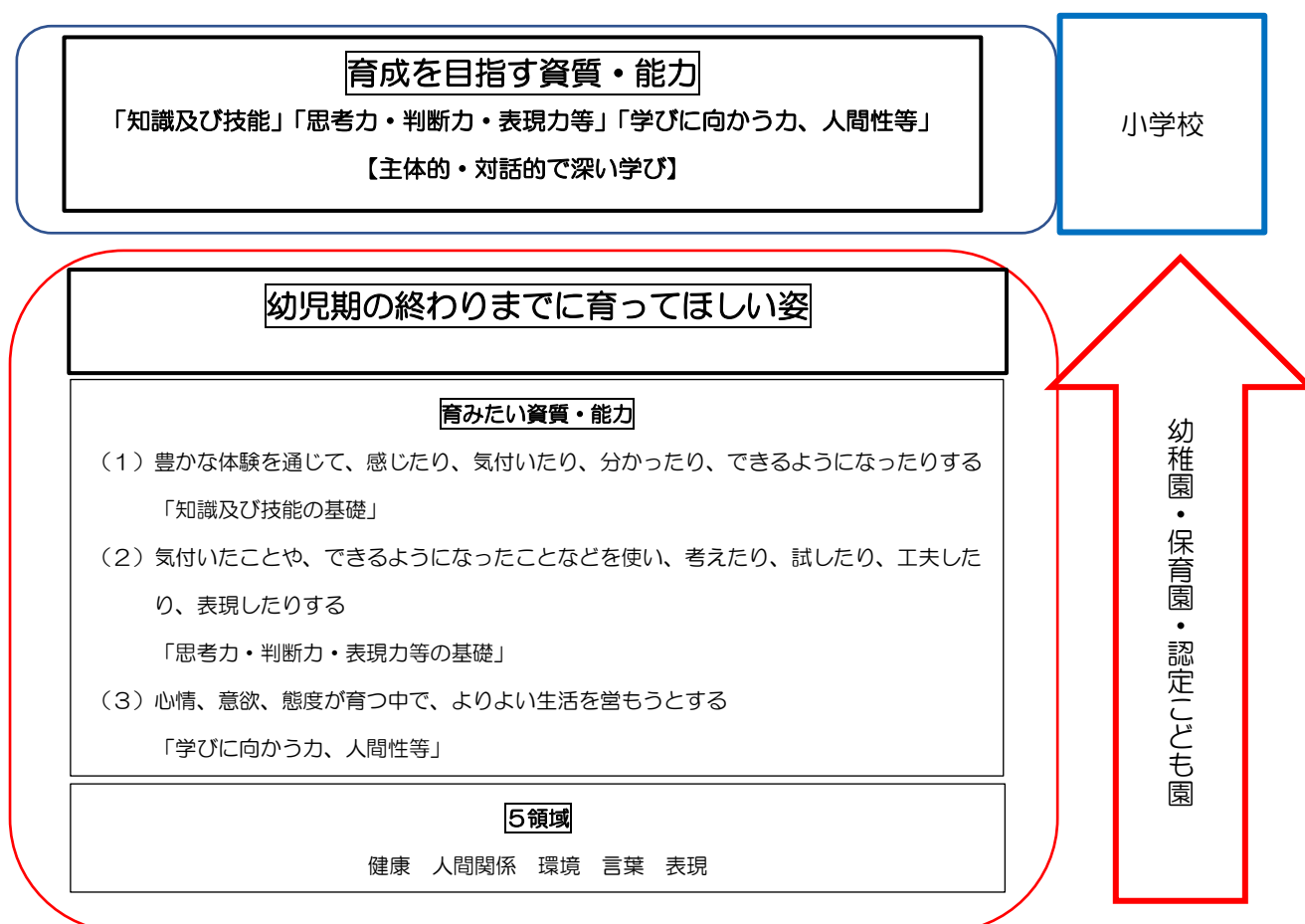
① 5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のつながり

幼稚園等の指導内容は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域に分けられます。幼稚園等でそれぞれ行われてきた活動等を知ること、幼児期の終わりまでに育った姿が明確になります。

領域	主な内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな遊びの中で十分に身体を動かす。 ・ 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 ・ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 ・ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 	①健康な心と体
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で考え、自分で行動する。 ・ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ・ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 ・ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。 ・ 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。 	②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 ・ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。 ・ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 ・ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 ・ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 	⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。 ・ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 ・ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。 ・ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。 ・ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。 	⑨言葉による伝え合い
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 ・ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。 ・ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 ・ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 ・ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 	⑩豊かな感性と表現

②幼稚園等から小学校までのつながり

幼稚園等では、5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮して教育活動が行われています。また、幼稚園等で育まれた「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という3つの資質・能力の基礎は、小学校の全教科の学習において、継続して育成されます。そのため、3つの資質・能力が、育てられていくことを意識した教育活動が必要となります。



③「主体的・対話的で深い学び」とは

小学校が園のことを知ることが大切なと同様に、園が小学校のことを知ること重要で。小学校では、現行学習指導要領に改訂されてから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されています。

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりする等の「深い学び」

以上の3つが児童の姿から見られるよう、指導を行っています。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 学ぶことに興味や関心を持つ ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 子供が自らめあてをつかむようにする ● 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ● 子供が自分の考えを持つようにする ● 子供の思考を見守る ● 子供の思考に即して授業展開を考える ● 子供の考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考を交流させる ● 交流を通じて思考を広げる ● 協働して問題解決する ● 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） ● 単元や各授業の目標を把握する ● ねらいを達成した子供の姿を具体化する ● 教材の価値を把握する ● 単元及び各時間の計画を立てる ● 目標の達成状況を評価する

（出典：文部科学省 国立教育政策研究所 HP）

(3) 架け橋カリキュラムの作成

架け橋カリキュラムは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら、接続を行う幼稚園等と小学校が協働して作成します。交流等の内容や時期を話し合いながら見直し、より学校、地域の実態に応じ、接続がしやすくなるようなものを目指します。

令和7年度に佐倉市が、カリキュラム作成の手引きを完成させ、令和8年度に全園、小学校に周知します。その後研修等を経て、各園・小学校が架け橋カリキュラムを作成します。令和9年度からは、作成したカリキュラムをもとに、実施、活用を行い、年度ごとに見直しを行いながら、より良いものへと改善していきます。



○作業内容 ※詳細はカリキュラム作成の手引きに掲載

- ①「5歳児シート」に遊びごとの活動をあげる。(幼保)
- 「小1シート」に、小学校での活動をあげる。(小)
- ②それぞれの活動について、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と、関連する番号を書く。
- ③話し合いながら、幼保小のつながりを考え、指導配慮事項を書き込む。
- ④こども、職員の交流時期、内容について話し合い、書き込む。⇒カリキュラム完成!
- ⑤1年ごとに見直し、修正、追加をする。

4 今後の予定

○令和7年度

- ・ 幼保小架け橋プログラム推進事業検討会開催

○令和8年度

- ・ 幼保小合同研修会（6～7月・1月予定）
- ・ 幼保小架け橋プログラム推進事業検討会開催
- ・ 幼保小架け橋プログラム推進事業事務局会議開催

○令和9年度

- ・ 架け橋カリキュラム実施